

第2回中間報告（秋学期終了報告）

1. 報告書提出日

2017年12月26日（月）—秋学期終了報告

報告期間：

2017年10月23日～2017年12月15日

（修士課程：第一学期）

2. 基本情報

氏名：河崎涼花

派遣ホストクラブ：三原ロータリークラブ

カウンセラー：橘 伸和 氏

受入ホストクラブ：Rotary Club of Norwich

カウンセラー：Janey Bevington

教育機関・専攻分野：

イーストアングリア大学 国際開発学部

教育開発修士課程

MA Education and Development

School of International Development

University of East Anglia

3. 学業面での成果

9月～12月の秋学期が終了いたしました。ほっとする気持ちとともに、信じがたい早さで日々が経過しているため、慢性的な焦燥感にも駆られています。

私が通うイーストアングリア大学の国際開発学部のターム編成は、秋学期（9～12月）と春学期（イースター休暇を挟む1月～5月）の二学期制で、5～8月は修士論文執筆時期というスケジュールです。各学期に3モジュール（科目）を受講します。

この秋学期には（1）教育開発概説（必須）（2）リサーチ手法（3）国際開発におけるインパクト分析、の3つを受講しました。

（1）教育開発概論【Introduction to Education for Development】

国際開発の分野における教育の理論や意義・あり方を多角的に捉える授業でした。世界の教育政策の背景に流れる（べき）理論（Human capital / right / capability など）を学び、課題のある途上国という現場で、いかに効果的かつ包括的（Inclusive）な教育機会を実現するかという大きな問いに、経済的・文化的・社会的視点で答えを探っていきました。約35名の受講生の国籍は様々で、自身の国の事例を踏まえて話す学生、自身の体験談として、母国ではない国の実状でも熱く語る学生が集まり、教授と学生の枠をいい意味で取っ払い、学生の発言や経験談から作り上げられるクラスは非常に新鮮でした。格差（inequality）と聞くと経済的な格差をまず想像しがちですが、それ以上に文化的、社会的にアクセス困難な状況が散らばっています。少数民族・少数言語の壁、ジェンダーの格差、昔から続く歴史と習慣による縛り、労働力としての子どもの役割など、世界が掲げる Education For All というアジェンダの実現は決して一筋縄ではいきません。逆に不公平を生むというプロジェクトの副作用（Social Reproduction）も生じています。様々な文献に触れることで、その複雑な歴史的背景や社会構造を学ぶことができました。

（2）リサーチ手法【Research Technique and Analysis】

社会科学の調査手法を学ぶ科目でした。定性的・定量的な分析の両方のリサーチデザインやデータ収集・分析手段、先行研究分析などの情報を集中的に落とし込みました。また、この科目の最終課題は、2700字以内の研究計画書だったので、自身の修士論文のテーマを念頭において授業に参加することができました。暫定の計画書ではありますが、少なからず、修士論文に現実味が帯びてきたように感じました。また、このモジュールでは、レクチャーとセミナーに加え、統計分析ソフトウェアのSPSSのワークショップもオプションで開講されていました。バックグラウンドがない中での受講は、やや負担が大きかったのですが、セミナーでは、学生同士で実際のケースを分析したり、互いの計画書のブラッシュアップのために議論を交わしたりする時間が多くあり、レクチャーでの学びを深めることができ、理解の手助けになりました。セミナーの意義を感じられる活動でした。また、統計ワークショップは特に、予備知識がないがために苦勞することもありましたが、今後の研究や職業に生かせるスキルであることを実感しながら、ひとつひとつ丁寧にこなすこ

とを意識して、ソフトを触っていました。クリスマス休暇等も十分に活用して、復習し、マスターしたいと考えています。

(3) 国際開発におけるインパクト分析【Welfare and Impact Evaluation】

このモジュールは、国際開発分野のあらゆるプログラムや政策を、現地への介入

(intervention) と捉え、それらの介入が、人々の生活の質にどのような影響 (Impact) を与えているかを分析する Impact Evaluation というアプローチの入門授業でした。分析手法の歴史とともに、人々の生活の質という測定困難な事象への対応、また、政策の費用効果や費用便益性に着目した分析アプローチや、さらに、様々なコンテキストへの配慮の必要性や、研究手法としての無作為化対照試験の功罪など、政策・プログラム評価分析に関する、多岐にわたる情報を学びました。入門とは言え、この授業もバックグラウンドや予備知識がなければ、フォローするのが苦しかったです。多くの事例が紹介されたため、実際の政策やプロジェクトの成功例や課題を探ることができました。4度行われたセミナーでは、ディベート・ディスカッション・グループプレゼンテーション・ワークショップという異なる形態がとられ、それぞれで、多国籍の学生による白熱の議論合戦、ネイティブの学生とのプレゼン作りと発表など、ここでしか味わえない経験（挫折あり達成感あり悔しさあり）をすることができたように思います。

実は(2)(3)の授業は、受講生から「関連するバックグラウンドがなければ負担が大きい」「内容を詰め込みすぎている」など、改善を要求する声も多数挙がっていました。

(こうして教授や学部長相手にも学生の意見を真っ向から主張できる機会と意思があることも良い意味でカルチャーショックでした。) 同感ですが、その厳しさ故に、予習復習の重要性を感じさせてくれた授業でもあり、頭のキャパシティを広げる貴重な訓練だったように思います。こうした授業を終えたことで自信もつきました。習熟度を最大にするため、クリスマス休暇中の復習

を徹底し、必要があれば

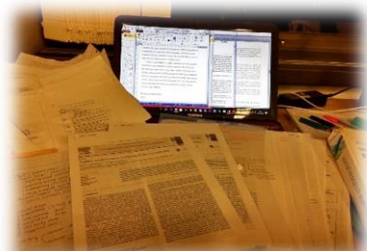


←(3)の授業のワークショップにて。「援助活動の最優先事項は？」

→essay 課題は常にこんな感じです...効率性...

←(1)の授業のセミナーにて、教育政策・理論の比較(グループプレゼン)

→コースメイトと教授です



教授にも再度説明を受けたいです。

また、学業面以外では、クリスマスシーズンということで、地域の慈善団体のクリスマスギフトラッピングボランティアに参加し、サンタクロースの裏方の仕事を体験してきました。同じくボランティアに来ていた、学生や地域の方との交流もできました。寄付で集まったセカンドハンドの物品を男女それぞれ年齢別に仕分け、それらを均等の価値になるように包んでいくという作業でしたが、代表の方が「物品だと不公平がでてしまう。だからやっぱりお金が一番公平性を保てる贈り物なんだよ。」（毎年女の子向けの物品は多く集まりますが、男子中高生向けの物品の回収に課題があるらしいです。）とつぶやいていたのが印象的でした。お金で解決することがすべてではないけれど、公平性・確実性を考えると、やはり金銭的な援助が望まれるのかもしれませんが。



4. 受け入れロータリークラブとの関わり

【これまでの関わり】

10月29日（日）地区ロータリーの奨学生との Potluck party に参加@Cambridge

11月5日（日）クラブ共催のオクタゴンコンサートに参加@Norwich

11月13日（月）カウンセラーの Janey さん・ご友人さんとの食事会@Norwich

12月7日（木）クラブの Christmas Meal に参加@Norwich

12月17日（月）カウンセラーの Janey さん・ご友人さんとの食事会@Norwich

【今後の予定】

1月17日（水）地区イベントに参加予定

奨学生同士の繋がりも良好で、11月29日には、学生のみで集まりました。大学も分野も違う学生との交流は貴重で、それぞれが直面している課題や今後の進路のことなど、参考になる話を気さくに話すことができ、分野は違いますが、同志として、今後も繋がっていきたい仲間たちです。また、Norwichにあるチャペルで開催されたオクタゴンのコンサートにも参加させていただき、チャペルならではのコーラスや会場の雰囲気を楽しむことができました。12月初旬には、クラブからご招待を受け、クリスマスの食事会の一員に加えていただきました。英国の伝統的なクリスマス料理である、ターキーとクリスマスプディングを堪能しました。毎回の会合で寄付金を募るのですが、今回の寄付金は、イギリス

のクリスマスシーズンのボランティア活動として習慣化されている「スープキッチン」(日本で言う「炊き出し」)に使われるそうです。この習慣は「クリスマスにホームレスの人々が路上で生活する光景は好ましくない」という思いから始まった文化だそうです。

こうして地域のボランティア団体とも密接に関わるロータリーのその活動範囲の広さ、深さに、ますます興味が湧いてきています。そして、クラブの活動以外にも、カウンセラーの Janey さんのご厚意で、ご自宅にご友人がいらっしゃるときなど、私にもお声を掛けてくださり、ご一緒させていただく機会が多々ありました。彼女の交友関係の広さと人柄の良さ、人望の厚さを実感する日々です。その都度、日本の、広島、三原のことを伝えることができ、私も勉強になります。



(左上) 奨学生同士の potluck party
(中上・右上) オクタゴンコンサート
(左下) Christmas Meal
(中下・右下) Janey さん宅での食事

5. 直面した課題

前述したとおり、今学期受講していた授業は、バックグラウンドや予備知識がなければ、ややハンデを背負うというものが重なりました。予習復習の必要性を実感したのですが、学生同士で意見や理解を共有することが何よりの習熟度アップにつながったことが最大の励み、そして学期中の発見となりました。予復習とクラスへの参加において、学生主体の授業を経験でき、受け身だと奥行きが出ない状況に直面しました。周りの学生や教授を巻き込み、より内容の濃い学びを追求しようと思いはじめています。また、セミナーでのディスカッションやディベートにおいて、自信を喪失する場面があったことも否めません。自分なりの考えが思いつかない時、発言がなかなか理解されない時、自分の発信力・

英語力に嫌気がさすこともありました。しかし、その気持ちを吐き出せる教授、友人たちの存在のおかげで、克服に向けて、切り替えることができています。また、ライティングにもまだまだ課題が残ります。膨大な量の文献・情報を整理し、考えを字数制限内にまとめる作業の効率が悪いと自覚しています。教授による中間添削やフィードバックを有効に活用して改善していきます。日常のあらゆることに一喜一憂しすぎず、しかし一日一日を大切に過ごしていこうと思っています。

6. 今後の課題・目標

勉強面では上で述べたとおり、効率性と習熟度の向上に努めていきます。

その他の目標として、ロータリークラブの地域活動にも積極的に参加していきたいと思っています。現在までは、お誘いを受けて、奨学生として参加させていただく形なのですが、受入クラブの活動として、地域への社会貢献活動が充実しているように感じているので、そうした活動にもしっかりとアンテナを張り、ここでしかできない活動に働きかけていきたいと思っています。

また、1月からは Norwich の Oxfam ショップでのボランティアを開始する予定で、スタッフとの準備段階に入っています。ショップというビジネスを通した国際開発活動に関わることで、また新たな発見や学びができると考えています。地域住民の方々ともコミュニケーションが取れる機会なので、継続的に関与したいと思っています。秋学期を終えて、学業以外にも活動の幅を広げることが可能だと感じたため、こうした活動にも関心を寄せています。

また、そろそろ就職活動に関しても考え始めなければなりません。春にロンドンで開催されるキャリアフォーラムへの参加や、個人的に希望する企業・会社に連絡を取る等、徐々に進めていきます。

7. その他

日々、カウンセラーの Janey さんの多大なるご配慮やお心遣いを感じています。改めて、私の奨学金に関わってくださっているすべての方々に御礼申し上げます。ありがとうございます。今後ともしっかりと自分と向き合い、できる限りのことにチャレンジして、自らの人間性と人生計画に磨きをかけていきたいです。

個人的に「チャリティ」（募金や物品支援・無料の食事提供など）が社会全体に、非常に浸透しているイギリス文化が興味深いです。それが国民性によるものか、宗教が関連しているからなのか...理解を深めたいなど考えている今日この頃です。

少し余談になりますが、自転車があれば、地域の活動などの行動範囲も広がり、バス運賃の節約にもつながるので、自転車ゲットも当面の課題です...

以上です。今後ともよろしく願いいたします。

みなさまよいお年を。年末年始、どうかご自愛ください。

河崎涼花

8. おまけに...

街のイルミネーションが綺麗な
クリスマスシーズンの Norwich です。



↓先日は花火もあがりました。
秋に見る花火は新鮮でしたが、極寒でした。



↓11月に初雪観測は珍しかったようです。(Campus 内の寮からの景色です)



相変わらず美しい壮大なキャンパスです。

